

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）
授業・セミナー開催報告書

報告日：2019年4月4日

招聘者氏名	岡田順子・山内知也
被招聘者氏名	Yvette Ngonon-Ravache イベッタ・ンゴノラバシェ
被招聘者 所属機関・職位	イオン物質フォトンクス研究センター CIMAP 研究員
日時	2019年3月18日
場所	神戸大学大学院海事科学研究科 総合学術交流棟 梅木Yホール
参加者	全員14名（うち女性教員2名）
授業・セミナーの内容 3月18日に神戸大学深江キャンパス総合学術交流棟の梅木Yホールにおいてセミナーを開催した。イベッタ博士の講演タイトルは” Polymer under ionizing radiations at CIMAT : Why and How?” であり、フランス国立重イオン加速研究所GANILのイオン物質フォトンクス研究センターCIMAPでの研究とその施設を紹介するものであったが、特にお願いをして、CIMAPを含むフランスの企業、研究機関、大学における女性研究者の活躍の様子を最新の統計を使って紹介してもらった。このセミナーには教員6名（うち2名が女性）と大阪大学の院生を含む8名の院生の参加があった。女性の参加は多くはなかったが、男女共同参画やダイバーシティについての教育はまず男性や経営層に対して行うことが重要であることに指摘は講演の中でもあった。フランスの企業、研究機関、大学における女性の比率は日本に比べると高いが、10年前には現在の半分程度だった領域もある。意識的、継続的な取り組みによってようやく現状が生まれている。討論では、日本では女子大学出身ということで能力面にネガティブな印象をもたれるという発言があったが、イベッタ博士は自身がアフリカ出身であることを例に挙げて、フランスでも女性比率の低い、物理学のなかで「闘い」ながら定職を得たとの発言があった。女性研究者は人に対する” care” を専門にするような文系や医療系に多いが、物理や化学では少ない。これは女性の能力が問題なのではないかと、マリーキュリーの生涯が証明しているとの意見も出た。参加者には男性が多かったが、大生の立場からどのような取り組み、意識改革ができるかについても議論した。	